

令和4年産 大豆情報 (Vol.1)

令和4年8月2日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



6月以降の気象経過

○6月の平均気温は、上旬は平年よりも低く、中旬・下旬は高く推移したため、6月全体では平年をやや上回る結果となりました。日照時間は平年並で、降水量は断続的な降雨があり平年より多くなりました。東北地方南部は6月15日に梅雨入りしましたが、6月29日頃に梅雨明けとなり、平年より25日早い梅雨明けとなりました。

○7月の平均気温は、全体的に高く、月平均で平年より1.7℃高く推移しています。降水量は13、15、16日の大雨で合計199mmを記録しており、月降水量は平年比190%となっています。日照時間は中旬に天気がぐずつきましたが、月平均としては平年比102%となりました。

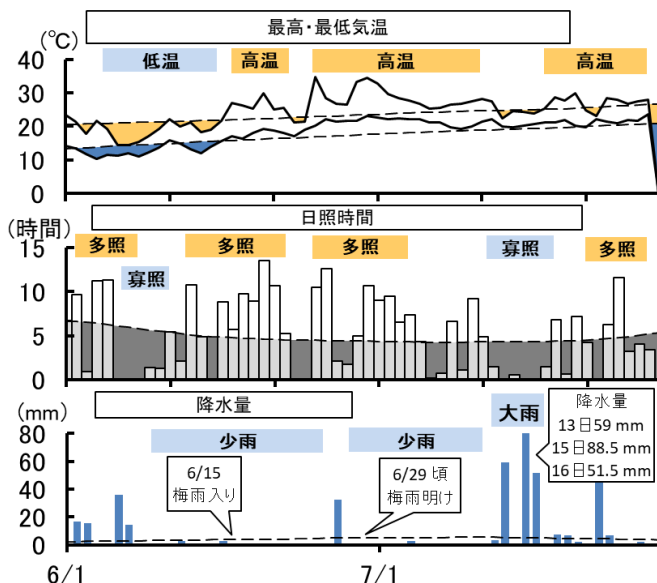


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量
※点線は平年値

7月15～16日大雨による被害と対策

できるだけ早く中耕培土を！

- 管内では、大豆に多くの浸水・冠水被害が確認されており、収穫皆無のほ場も散見されています。
- 現在、枯死していない株でも、土壌中の酸素不足により、生育遅延や根腐れ等による生育不良や枯死が進む可能性があります。



河南地区(7月16日) 桃生地区(7月16日) 鳴瀬地区(7月21日) 石巻地区(7月25日)

◆対策

- できるだけ早めに**中耕培土**を行い、新根(不定根)の発生を促してください。根粒菌の活性化や雑草の発生抑制にも効果があります。
- 中耕培土後も葉の黄化が回復しない場合は、硫酸などの即効性肥料を施用して生育の回復を図りましょう。**窒素成分で3kg/10a**(硫酸15kg程度)が目安です。

注)ただし、ミヤギシロメではまん化・倒伏の危険があるので生育状況に注意して施用してください。

◆タンレイ：2ほ場とも播種時期は平年と同じか遅く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を下回っています。水沼ではほ場の一部で茎葉の黄化や枯死症状が発生しています。

◆タチナガハ：播種時期は平年より遅く、主茎長、主茎節数、分枝数は平年を下回っています。大雨被害によりほ場の一部で葉の黄化や下葉の枯れ症状が発生しています。

◆ミヤギシロメ：河北では播種時期は平年より早く、主茎長、主茎節数は平年を上回り、桃生では、大雨被害による茎葉の枯死症状が発生しており、主茎長、主茎節数、分枝数は平年を下回っています。

表1 生育調査結果(7月25日調査)

品 種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広淵 (河南)	6/18	+7	+3	36.1	-2.7	-0.2	9.1	-0.2	+0.1	0.2	-1.2	-0.8
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/10	±0	-4	28.8	-21.8	-7.9	7.2	-2.2	-1.4	0.0	-0.5	-1.0
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/22	+21	+10	27.9	-19.3	-5.1	7.6	-4.2	-1.2	0.1	-0.8	-0.4
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/02	-7	-18	63.9	+14.6	+31.8	10.5	+0.8	+3.1	1.2	+0.5	+0.5
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	6/21	+14	+2	38.9	-10.5	+6.9	8.4	-1.2	+1.1	0.2	-0	-0.2

※1 平年値：H29～R3の5か年平均

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

開花状況

タンレイ、タチナガハは開花期を迎えています

紫斑病対策には適期の薬剤散布が重要です。開花期を確認して防除日を決めましょう。

大豆の開花期は、「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

8/1～2の巡回調査による観察では、タンレイ、タチナガハの標準播種では、開花期を迎えていました。



表2 調査ほの播種日と開花期

品 種(作型)	地点名(旧市町)	播種日(月日)	開花期(月日)	
タンレイ (普通)	広淵(河南)	本年	6/18	8/01
		前年	6/11	7/28
		平年	6/15	8/3
タンレイ (麦あと)	水沼(石巻)	本年	6/10	7/30
		前年	6/10	7/29
		平年	6/13	7/31
タチナガハ (麦あと)	蛇田(石巻)	本年	6/22	8/02
		前年	6/1	7/26
		平年	6/11	8/2
ミヤギシロメ (普通)	小船越(河北)	本年	6/2	未達
		前年	6/9	8/5
		平年	6/19	8/11
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田(桃生)	本年	6/21	未達
		前年	6/7	8/7
		平年	6/19	8/12

今後の管理

◆中耕・培土

◎ 通常開花期の10日前までに終わることとなっていますが※，大雨被害のあったほ場では、**開花期10日前以降であっても**，大豆が管理機が入れる大きさであれば、**中耕・培土**を行いましょ。

※ 中耕・培土は遅すぎると，根の切断や花，莢に損傷を生じるだけでなく，分枝が機械に絡まることによって倒伏を助長するなど，減収につながる場合があります。

◆追肥 **中耕・培土が優先，黄化が回復しない場合は地力や生育をみて要否を判断！**

◎ 湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には，硫酸などの速効性肥料で生育回復を図りましょ。施用量は**窒素成分で3kg/10a**程度が目安です。尿素の葉面散布を行う場合は，肥料焼けしないよう原液を水で希釈して行いましょ。ただし，窒素過多は根粒菌の活性を低下させます。追肥する場合は，中耕培土後の葉色の推移を観察してから行いましょ。

◎ 大豆は開花期以降多量の窒素を必要とするので，最終培土時に緩効性肥料(LP40)を現物で12.5kg/10a(窒素成分で5kg)程度施用しましょ。なお，地力が高いほ場では追肥の効果が低い傾向がありますので，追肥の実施はほ場条件を考慮して決定しましょ。

※ ミヤギシロメでは蔓化・倒伏を助長する場合がありますので，注意しましょ。

◆病虫害対策 **タンレイ：紫斑病防除を最優先**

ミヤギシロメとタチナガハ：マメシクイガなどの子実害虫防除を優先

◎ 紫斑病

降雨が多く，収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので，**タンレイでは開花期後20～40日に2回防除**しましょ(同一剤の使用は避ける)。

◎ 子実害虫(マメシクイガ，フタスジヒメハムシ，ダイズサヤムシガ，カメムシ等)

☆マメシクイガ

連作ほ場で多発します。8月末～9月はじめに1回目の防除，その7～10日後に2回目の防除を行いましょ。

☆フタスジヒメハムシ

生育初期の葉の食害に加え，若莢の表面を食害し，そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょ。

☆ダイズサヤムシガ

若齢幼虫が大豆の生長点付近の新葉をつづり合わせて食害しているとき(右写真)に防除しましょ。



◎ **食葉性害虫** (チョウ目幼虫; ツメクサガ, ウコンノメイガ, オオタバコガ, コガネムシ類)

開花期後(特に莢伸長期~子実肥大期)に食害を受けると減収
することがあるので、食害葉面積率20%(右写真)を目安に防除しましょう。



食害葉面積率
20%

◎ **アブラムシ類**

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し、
多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

発生のピークは、8月下旬から9月上旬ですが、
葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右)葉の
裏を確認し、発生が多いときには薬剤が葉の裏
までかかるよう、丁寧に防除を行いましょう。
また、モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



◆ **湿害対策**

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

排水溝は詰まっていないか



明渠に停滞水が溜まっていないか



◆ **乾燥対策**

◎大豆は開花期以降、多量の水を必要とし、不足すると落花・落莢により減収するので、晴天が7日以上続き、土壌が白く乾燥し、日中の葉の半分以上が反転している場合には、暗きよを閉じて水分保持(地下かんがい)するなどの対策が有効です。

◎ 畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。

畝間かん水の注意点

- ①必ず夕方~朝方にする
(日中は絶対にダメ!)
- ②過湿にならないようにする